

巻 頭 言

会 長 伊 東 眞

会員の皆様には、教科情報の授業指導法等の研究と成果の発表を通して、授業力の向上、指導力の工夫に努めていることと思い、感謝いたします。

本年度研究発表大会は、富山いずみ高校林大作教諭、新湊高校片岡留美教諭が総合学科、授業における取り組みを発表し、県教育委員会県立学校課高校教育係野崎指導主事に講評いただきました。

情報教育は、すべての教科で学習や研究技法の基礎をなします。発表の成果は、すべての教科に還元でき、各校でその成果を伝達し、日頃の指導に生かしていただきたいと期待します。

今日、情報技術の革新、情報媒体の進化によって、情報通信環境は日々変化し、教育環境に対する影響もますます大きくなっています。インターネットは、机上に固定されたパソコンだけでなく、 아이폰のようなスマートフォンで利用し、アイパッドのような情報端末を、講演会の講師がプレゼンテーションに利用するようになっていきます。

こうした変化は、学校現場の教育機材、教材が劇的に変化する予兆でもあります。細かな地図をもっと大きくして見ることができ、写真と比較して、バーチャルで現地研修の代替ができ、図形を回転して立体視できるように、学習の理解を早め、ユニバーサル化を進め、ハンディを克服する手立てともなります。情報通信技術を活用して「分かる授業」を推進し、教育方法や教材、授業への応用が求められます。

OECDが行うPIISA読解力調査ではデジタル読解力を問う設問が設けられ、PIAAC（成人が日常の生活や職業で求められる技能の調査）でもITを活用した問題解決能力が問われるようです。社会的・職業的な自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育てるためにも情報活用能力はますます重要なものとなり、情報通信技術、機器の活用能力を身につけ、正しく利用するための指導がますます重要となります。常に新しい知識が生まれ、それをどう活用し、問題解決を図るかという実能力的な力が問われます。ネットワークがもたらすボーダレス社会により、セキュリティ管理や知的財産権の侵害など新たな課題も発生します。

こうした要請や課題にこたえ、授業での実践を通じた教育研究の成果を活かし、研究内容を共有し、ホームページ、共有サーバーも活用して、成果を発表し、本研究会での情報交換、指導法のやり取りなど、学びあいがさらに進展することを期待します。

本研究会の運営と紀要の編集に尽力いただいている事務局に感謝し、本研究会の活動がますます発展することを念願して挨拶とします。